
科学の眼 No.404

尾を持つ両生類！

兵庫県のサンショウウオ(有尾)類

Caudata in Hyogo Pref.

(Jan. 15, 2007)

■危機的な兵庫県のサンショウウオ

日本には22種のサンショウウオ類(イモリはサンショウウオの仲間に入れないことが多いですが、有尾類という意味で、ここではサンショウウオ類と呼ぶことにします)が分布しており、兵庫県にはその27%に当たる6種が生息しています。「改訂・兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2003(兵庫県RDB)」によると、これらすべて種が希少カテゴリー(Aランク1種^{*}、Bランク4種、要注目種1種)に判定されていて、県内すべてのサンショウウオ類がすでに危機的な状況に追い込まれていることを示しています。

なぜ県内に生息するすべての種が希少種となってしまったのでしょうか。山地溪流性の種にとっては、植林された杉が間伐されないために林床が暗くなり、下草などが完全に消失したことが大きく影響しています。また丘陵部の湧水周辺に生息する種では、近年の宅地開発や圃場整備、道路の新設、改修で生息場所や産卵場所がつぶされてしまったことが大きな原因です。一生を河川溪流で過ごすオオサンショウウオでは、植林や宅地開発、圃場整備は影響しないように思われがちですが、河川工事や開発で崖がコンクリートで固められると、生息する空間や産卵場所がなくなるといった影響が出てきます。どの動物にとっても言えることですが、単に生息できる空間があるだけではだめで、その生息域に餌になる生物もいないと生存することができないのです。

希少になってしまったサンショウウオ類ですが、保護対策が徐々に進んできていますので、絶滅する前にその効果が上がることを期待しています。

*Aランク=「改訂・兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2003」に記載された貴重性のランク

■県内に生息するサンショウウオ類

オオサンショウウオ 兵庫県RDB ランクB

環境庁RDBで準絶滅危惧種に指定。特別天然記念物。全長60~70cmのものが多いが、中には150cmを越える個体も知られている。県下の河川溪流で見られるが生息個体数は少ない。出石川では平成16年10月の台風23号による大水で上流から流されたと見られる300頭以上の個体が発見され、河川復旧工事が終了するまで保護された。成体、幼生とも完全な水生。



アベサンショウウオ 兵庫県 RDB ランク A

環境庁 RDB で絶滅危惧 IA 類に指定。体色は茶褐色で全長 8～12cm。産卵期は 11 月から 12 月で、丘陵部から山地の湧水に産卵する。卵塊はバナナ状。幼生は水中で生活するが、変態すると陸上に移る。現在知られている生息地は福井県と京都府、兵庫県の 3 県のみであり、県下での生息数は極めて少ない。



カスミサンショウウオ 兵庫県 RDB ランク B

2006 年の環境庁 RDB で絶滅危惧 II 類に指定。体色は茶褐色で多数の小黑斑があり、尾の上下に黄条がある個体が多い。全長 7～12cm。平地の丘陵部の山裾の湧水に、2～4 月頃産卵する。幼生は水中で生活するが、変態すると陸上に移る。瀬戸内海側から日本海側まで広く分布する。色や模様は変異が多い。



ヒダサンショウウオ 兵庫県 RDB ランク B

2006 年の環境庁 RDB で準絶滅危惧種に指定。体色は紫褐色で黄色の小斑紋がある。全長 10～15cm。県下では標高 500m 以上に多いが、日本海側では海岸に近い比較的低い山地にも生息する。2～4 月頃に溪流の石の下などに産卵し、幼生は水中生活するが、変態すると陸上に移る。兵庫県の山地で最も生息数の多い種である。



ハコネサンショウウオ 兵庫県 RDB ランク B

体色は紫褐色で背側にピンク色の帯がある。全長 10～19cm。県下では幼生の多くが標高 500m 以上の溪流で観察されるが、産卵はさらに高い山地の湧水の奥で 5～7 月頃に行われる。幼生は 2、3 年水中生活し、変態すると陸上に移る。数は少ない。



イモリ 兵庫県 RDB ランク 要注目種

2006 年の環境庁 RDB で準絶滅危惧種に指定。背面全体が黒色で、腹側には赤色の地に不規則な黒斑がある。全長 8～14cm ほどになる。幼生は水中に住み、変態したものは数年間の陸上生活を経た後、成体となって再び水中生活にもどる。山地のものは生息数が減少していないようであるが、平野部にすむものは急速にその数が減少している。



《姫路市立水族館主任水生生物専門員 湯浅義明》

《〒671-2222 姫路市青山 1470 番地 15 姫路科学館発行 tel 079-267-3962》